

体験型海外教育実地研究 第3学年 異文化理解

「Let's play the Japanese 'MENKO' game」

教育学研究科 学習科学専攻 カリキュラム開発専修 坂本 亮

1 はじめに

私が体験型海外教育実地研究に参加した理由は、海外の教育事情を実際に体験しながら知る事のできる絶好のチャンスだと感じたからである。これまで日本の教育については学んできたが、海外の教育との比較を通じた方が、より日本の教育を客観的に見ることができ、自分の知見も広がると考えた。

また、このような機会をきっかけにしないと、自らの意思で海外に渡航しようとするのが生涯無さそうと感じたので、このプログラムへの参加を決意した。

2 実地研究の日程と概要

月日	曜	交通等	訪問地・用務等	宿泊地
4/24	水	渡航までの日程, パスポート, ESTA, 授業研究テーマ事例, 部屋割り		
5/15	水	授業研究テーマ案の交流・テーマの設定		
6/6	木	学習指導案の検討		
6/11	火	学習指導案の検討		
6/24	月	学習指導案(英語版)の検討		
7/1	月	学習指導案(英語版)の検討		
7/6	土	第9回学校間交流国際フォーラム		
7/7	日	ワークショップ: 学習指導案および教材・教具の検討		
7/22	月	保険説明 (学習指導案の検討, 指導案の提出について)		
7/23	火	保険説明 (学習指導案の検討, 指導案の提出について)		
8/26	月	準備状況確認, 報告書・教材集・発表会について, 渡航準備・関係書類提出		
9/9	月	最終事前打ち合わせ (準備状況, 準備物・集合時刻等の確認)		
9/14	土	広島→成田 0755-0935 (NH-3236) 成田→ワシントン ダラス 1105-1040 (NH-2) ワシントン ダラス→ローリー 1220-1329 (UA-4880) 空港 - (ウォーレン先生・ECU バス) →City Hotel & Bistro		アメリカ・ノースカロライナ州 City Hotel & Bistro 203 W. Greenville Blvd, Greenville, NC 27834 TEL(877)2712616 Greenville
9/15	日	(ウォーレン先生・バス)	ミーティング, ホテルにて教材作り 各学校の先生方と事前打ち合わせ レセプションパーティ	Greenville 同上

9/16	月	City Hotel → Wahl-Coates 小学校へ (ウォーレン先生・バス)	学校訪問 (Wahl-Coates 小学校) 学校見学, 授業見学 学校についての説明 先生との打ち合わせ	Greenville 同上
9/17	火	City Hotel → Wahl-Coates 小学校へ (ウォーレン先生・バス)	学校訪問 (Wahl-Coates 小学校) 学校見学, 授業参観, 授業実践	Greenville 同上
9/18	水	City Hotel → ECU (ウォーレン先生・ECU バス) ECU → ローリー (ECU バス)	午前 ECU の講義に参加 午後 ローリーへ移動 歴史博物館を見学する。	ノースカロライナ州 Clarion Hotel State Capital 320 Hillsborough Street Raleigh, NC 27603 TEL(919)8320501 Raleigh
9/19	木	徒歩で, Exploris M.S.へ	学校訪問(Exploris M.S.) 午後 ローリー市内見学 自然史博物館を見学する。	Raleigh (同上)
9/20	金	ローリー→ワシントン ダラス 1021-1134 (UA-4887) (空港→ホテル間はタクシー)	ワシントンへ移動 アメリカ文化体験	Washington Plaza 10 Thomas Circle, Northwest, Washington,DC 20005-4176 TEL (202)8421300 Washington, DC
9/21	土	徒歩	アメリカ文化体験・Book Fair リンカーンメモリアル, ホロコースト記念館, 宇宙と航空博物館, 自然史博物館を見学する。	Washington DC(同上)
9/22	日	ワシントンダラス→成田 1220-1525 (NH-1)		
9/23	月	成田→広島 1740-1915 (NH-3237)		

3 実地研究授業

3.1 単元名 第3学年 異文化理解 「Let's play the Japanese 'MENKO' game」

3.2 事前準備

① 単元設定の理由

本単元のねらいは3点であった。

1 点目は日本の伝統的な遊びであるメンコ遊びを実際に体験することによって、異文化を体験することである。メンコ遊びは昔ほど盛んではないが、現在でもスポーツのトレーニングに活用されたり、子どもたちに人気なキャラクターのグッズとして発売されたりと、形を変えながらも生き残る伝統的な遊びである。この伝統的な遊びをぜひアメリカの子どもたち

にも知ってもらい、異文化を体験してもらおうと考え、このねらいを設定した。

2 点目はメンコ遊びを通してクラスの仲間と交流することである。9 月から新学年を迎える子どもたちにとって、授業実践を行った時期はまだクラス替えをして間もない時であり、クラスの仲間との交流も多く無い時期であると考えられた。そこで、メンコ遊びのレクリエーション的側面を生かし、メンコ遊びを通してクラスの交流を図ってもらいたいと考え、このねらいを設定した。

3 点目は、遊びながら自然と体力が向上するような環境を体験することである。メンコ遊びには、遊びながら投力を鍛えることができるという側面もある。子どもたちに無意識的にこれを体験してもらおうと考えた。また体験後も遊びながらも自然と体力が向上する様、周りにも似たような遊びがないか探して遊んでみることをすすめるようと考え、このねらいを設定した。

② 準備したこと

導入として、メンコ遊びの動きをイメージしてもらいやすくするため、メジャーリーガーに関するクイズを用意した。その中で、地元ノースカロライナ州出身で、2010 年にアメリカンリーグの MVP にもなった Josh Hamilton 選手を取り上げた。

また、先生方のご意見から子どもたちがメンコを実際に持って帰って遊ぶことが大切であると考え、一人 5 枚ずつ自分の物として持って帰ったり、休み時間などにクラスでメンコ遊びができるようにクラスに配備したりするため、約 150 枚のメンコを製作し、持参した。

メンコ遊びについて概要やルールを説明する際、子どもたちの質問を聞き取ることは難しいと考えた。そこで、どんな質問が出そうかあらかじめ想定し、質問として出てこないようにルールを簡易化するとともに、簡単な英単語と絵で説明を表した紙を用意しておき、説明がスムーズにできるようにした。

3.3 学習指導案

Lesson Title: Let's play the Japanese 'MENKO' game.

Lesson Author: Ryo Sakamoto

Date: September 17th 2013

Grade I would like to teach: 3th grade

Subject: Culture

Description: In this class, students will play 'MENKO' game and enjoy it with classmates.

And they learn about Japanese traditional game 'MENKO'. In addition, they will strengthen their throwing power unconsciously.

Objectives: As a result of the activity, it will be possible for children to

1 Know about the Japanese traditional game 'MENKO'.

2 Interact with classmates by playing the game.

3 Advance their throwing power automatically by playing the MENKO game.

Materials, Resources and Technology: Questions, Pictures, MENKO cards, Game field.

Teaching process:

Activity	Instruction of teacher	Materials
1 Know about the Lesson Author.	1 Introduce myself to the students. • My name is Ryo Sakamoto.	

	<ul style="list-style-type: none"> • I'm from Japan. • My favorite sports are baseball. 	
2 Enjoy the MLB (Major League Baseball) Quiz.	<p>2 Ask questions about MLB.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Josh Hamilton (He is from Raleigh, North Carolina. He receive MVP at 2010) • Ichiro Suzuki (He is very famous Japanese baseball player.) • Yu Darvish (He is one of the most successful Japanese baseball player.) 	<ul style="list-style-type: none"> • Questions • Pictures
3 Know about a Japanese traditional game. (MENKO)	<p>3 Introduce the 'MENKO' game.</p> <ul style="list-style-type: none"> • To play this game, you move your arms like pitching a baseball. • Show them the 'MENKO' cards and explain that those are made from cardboard only. • Explain that this game was played in Japan. • Show them the 'MENKO' game to them and explain the methods and rules of 'MENKO' game. <p>① 'You must shake your hands with the opponent person before the game starts.'</p> <p>② 'First, do the scissors-paper-rock. If you win, you attack first. And, if you lose, put one of your cards on the field.'</p> <p>③ 'When you attack, if you can overturn the 'MENKO' card, you'll get the card. But, if you can't overturn the 'MENKO' card, you must pick up the card you threw.'</p> <p>④ 'When time's up, if you have more cards than your opponent person, you win.'</p> <p>⑤ 'You must shake your hands with the opponent person after the game finish.'</p>	<ul style="list-style-type: none"> • MENKO cards • Game field
4 Play the 'MENKO' game.	<p>4 Set up the game fields and make pairs to be able to play the 'MENKO' game.</p> <ul style="list-style-type: none"> • If students feel difficulty to overturn the 'MENKO' card, I teach them knacks and hints. 	<ul style="list-style-type: none"> • MENKO cards • Game field
5 Listen to the lesson author's last speech.	<p>5 Gather the students and explain that the 'MENKO' game can strengthen their throwing power through enjoying playing it. And,</p>	<ul style="list-style-type: none"> • MENKO cards

	<p>recommend them to search and interview their family about the games which needs physical movements and some materials, but which they don't know.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Give them the 'MENKO' cards to play it with friends and family at home. • Tell them that they can draw pictures on the 'MENKO' cards or glue pictures on them so that they can create their original 'MENKO'. 	
--	---	--

3.4 授業の実際

- (1) 導入において、自己紹介をした後にメジャーリーガーに関するクイズを行った。子どもたちはクイズに正解しようと意欲的に取り組んでいたが、写真から選手名を当てるまでには至らなかった。しかし、学習するメンコ遊びが野球の投手の様な動きをする遊びだということの説明として成功したように感じられた。
- (2) メンコ遊びの概要やルールの説明では、あらかじめ準備した紙を用いながら実演を行った。実演を手伝ってくれるボランティアを募った際に、なかなか手が上がらずに戸惑ったが、立候補してくれた子どもはその後の活動も積極的に行なってくれ、とても親密になることができた。説明自体は概ね上手くいった。
- (3) 実際にメンコ遊びをする活動では、多くの子どもが積極的に取り組んでくれていた。しかし、意図していた、立った状態から投げる姿勢が理解できずに座った状態で投げる子どももおり、説明が不十分な点も確認できた。メンコを実際にひっくり返すにはコツが必要であったため、机間指導などをしながら教えたが伝わりにくく、メンコをひっくり返す経験ができたのは3人程であった。そのためか、活動があまり長続きはせず、指示を出す前に片付けが始まってしまった。また、メンコの片面を5色に色分けしていたことに意味があると受け止めた子どももおり、活動の阻害要因になってしまっていたことは予期していなかった事態であり、教材研究の反省点である。
- (4) 最後にまとめとして、「メンコ遊びでは自然と投げる力が鍛えられること」、「メンコ遊びの様に、体とシンプルな素材を使って遊べる遊びが身の回りにもあるので、探してみる事」、「メンコに写真を貼ったり絵を描いたりしてオリジナルのメンコが作れること」を口頭で伝えた。自分の英語力の無さから、意図が伝わり切らない一面もあったが、担任の先生が汲み取って補助していただいたおかげで、伝わった部分もあった。オリジナルのメンコについては写真を貼ったり絵を描いたりした実物を見せたところ、興味を抱く子どもが多かった様に感じられた。

3.5 考察

全体を通して、意図した流れの授業はできたが、以下の2点が主な反省として挙げられる。

1点目は、絶対的な英語力の低さである。授業ではやはり子どもとの掛け合いをしたり、子どもの発言を拾って授業途中にでも改善を加えながら進めたりする必要があると考える。その中で、本授業では言語が大きな壁となってしまう、授業改善を途中で行いにくい状況になってしまった点が反省すべき点である。

2点目は、子どもが学びたい内容が十分に用意できなかったことである。授業終わりに時間

が余ったので、担任の先生が子どもたちに「来てくれた人たちに聞きたいことはないか」と尋ねたところ、子どもたちは日本の風景や食文化などに興味がある様であった。自分の授業はその文化を手段として別の万国共通ともいえる内容を伝えようとしていたので、子どもの興味関心に添えていなかったのではないかと考えられる。目標を考える段階から考えられる反省である。

4 教育実地研究における自己変容

4.1 教育観の変容

授業実践を通して、指導者が伝えたいことと学習者が学びたいことの間にはズレがあり、またそのズレを小さくしたり、学習者にズレだと感じさせないようにしたりすることが大切だと感じるようになった。本授業では自分の英語力の低さから、このズレを感じ取ることも修正することもできなかった。しかしながら、日本における授業であれば、このズレを感じ取ったり修正したりすることも少しは容易になると考えられる。授業実践で気付くことのできた課題やズレへの気づきを、今後の自分の成長や教育活動の充実に役立てられるようにしていきたい。

4.2 自分自身についての変容

私は海外を訪れるのは今回が初めてであった。そのため、日本とは異なる感覚や文化を多く体験することができたと考える。学校の雰囲気や制度、現状の違いなどを感じ取れたのはもちろんのこと、学校外での人とのふれあいなどを通して言葉のニュアンスやお店の様子などの文化的な側面の違いを感じ取れたことがとてもよい経験になったと考える。しかし、あくまで日本とアメリカの文化を体験したのみであり、他にも違う文化を持つ国はたくさんある。そういった国の文化を調べたり体験したりすることが自分の経験の豊かさにつながっていくのだと考えられるようになった。

4.3 グローバルマインドに関する変容

日本では「おもてなし」という言葉が流行っているが、アメリカやその他の国にもこのような考え方は存在し、また日本のおもてなし精神よりも強く行動に発揮される場面があると考える。今回の体験型海外教育実地研究でも、アメリカの多くの先生方の協力にもとに進められていると感じる場面が多々あった。こちら側が一方的にお世話になっているにも関わらず快く歓迎して頂き、さらにはプレゼントまでも用意して頂いたことにはとても驚いた。自分が教員として日本の小学校にいて、このような歓迎の仕方が発想として出てこないと思われる。

世界の中で自国だけの文化を持つことはとても大切な一面ではあるが、世界共通な考え方や物事があるということを理解しておくこともまた大切なことなのではないかと考えるようになった。

5 おわりに

体験型海外教育実地研究は、国内外を問わず本当に多くの方の協力を得て行われているのだということを実感した。この経験は自分にとってとても大きな財産になると思われる。自分の力では関わって下さった方々に恩返しをするのは難しいが、自分が一教師として多くの子どもたちに自分の経験を伝えたり、経験を生かしたよりよい授業をしたりすることによって、社会に貢献することはできると考える。そういった形で少しでも形を変えた恩返しができるように、今後とも成長を続けていきたいと思う。関わって頂いた全てのみなさんに感謝したい。